



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2021. 5月第630号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

NHKの大河ドラマ「青天を衝け」にはまっている。新一万円札の肖像にもなる「渋沢栄一」の生涯を描いたものだ。夕礼拝が終わると、そ

そくさと家に帰る牧師を見て、「今日も、テレビですか」とみんなには言われるのだが、どうしても見ずには居れない。とうとう、渋沢の名著「論語と算盤」の現代語訳を買

い求め、今読んでいる最中だ。日本資本主義の父と呼ばれ、錚々たる企業の設立に関

わった渋沢栄一は、また多くの慈善活動を支援したことでも知られている。特に、救世軍の山室軍平とは、その聖書講義を死の直前に受けるな

ど、大変深い関係を持ったという。「信仰心を起こさせて霊を救う。しかしパンがなく

ては何事もできぬので働かせるといふ。その根本の主旨はどうか知らぬが、その方法が経済道徳との合一と似通って

いる。」という救世軍の社会事業に対する渋沢の言葉が残っているようだ。(クリスチャン新聞2021年1月3日号より)

富」「(算盤と論語)より」を追求し、自らの私利私欲のために富を生むのではないということである。

三菱財閥の岩崎弥太郎から、「君と僕が手を握りあつて事業を経営すれば、日本の実業界を思う通りに動かすことができる」という誘いに、「独占企業は、欲に目のくらんだ利己主義だ」と腹をたて席を立つたというエピソード

瞑想

あなたの口を開いて弁護せよ。

ものを言えない人を、犠牲になつてゐる人の訴えを。

る。「(論語と算盤)」とも書いています。もちろん彼は、キリスト教に理解を示してはいたけれども、クリスチャンではなかった。

またその男女関係においては、とても道徳的とはいひ難いことを行つてもいる。しかし、その経営の精神においては、クリスチャン以上にクリスチャン的であると言つても過言ではないだろう。

箴言31…8

主幹牧師 榎本 恵

ソードひとつからも、渋沢の心意気が伝わってくる。正當な経済活動を通し利益を得ることは決して悪ではなく、その富をどう扱うかが大切なのであり、「自分がして欲しいと思うことを、人にもしなさい」というキリストの教えと『自分がして欲しくないことは、他人にもしない』という孔子の教えとは、対照的に見えても、結局は一致す

さて、今回の選ばれた聖書箇所は、箴言最後の章の言葉である。「イスラエルの王、ダビデの子、ソロモンの箴言」(箴言1…1)として始まった知恵の書ではあるが、どういうわけか最後の2つの章、すなわち30章、31章は、ともに、「ヤケの子アタルの言葉」(30…1)そして「マサの王レムエルの母から受けた論しの言葉」(31…1)と、外国の王の知

恵の言葉となつてゐる。その理由については、想像する他ないのだが、それがユダヤ民族固有の知恵だけではなく、あらゆる人に通ずる普遍的な教えとして、この箴言の最後に、ユダヤ人以外の王の言葉を採用したのかもしれない。いずれにせよ、そこで語られているのは、全ての国に共通する正しい裁きということであろう。「あなたの口を開いて弁護せよ。ものを言えない人を、犠牲になつてゐる人の訴えを。」(箴31…8)とは、ひとりマサの国のことだけではなく、イスラエルにおいても、いやまさに現代の腐敗した我が国の政治家にも共通する論しなのだ。

私たちは、虐げられたもの、小さくされたものが報われ、正しい裁きが行われることを願う。そしてそれは、何もクリスチャンだけの願いではなく、この抑圧された世界に生きる一人ひとりの声なき声の叫びなのだ。

友よ、今日もレムエルの母は、論じている。この格差と差別がますます広がりにゆく世界に向けて「あなたの口を開いて正しく裁け。貧しく乏しい人の訴えを。」(箴31…9)と。

京浜アシラムに参加して

水野 成俊

11月19日より京浜アシラムに参加しました。私どもの教会は賑やかで、教会奉仕も忙しく、恵み豊かにありますが、「御言葉の中に静まりたい」という思いが私の中に続いておりました。

アシラム、アシラム、と思っていた



所、義母の所属教会と非常に親しい加々美先生が京浜アシラムの事務局を行っておられると聞き、これは主の招きと確信して参加を申し込みました。

今回の主題は「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます」使徒1・8で、4回の静聴の時を振り返り私が強く感じたのは、使徒2・40「この曲がった時代から救われなさい」というペテロの言葉でした。

曲がった時代を正すのは主のみであり、私たちも不正と愛の無さが当たり前と居直るのではなく、私たちの思いも希望も主の御手によって救われ続けなくてはならない、と感じまし

た。

また、ファミリーの皆さまとの分かち合いも豊かであり、何十年も主と共に歩み、主の恵みの生きた証拠である沢山の兄弟が私の視界にありました。兄弟は口を開けば思慮

深い言葉やユーモアで主を賛美し、互いを励まし、また心を開いて祈りの助けを求めておられました。場所をお借りした修道院の入り口に「マリヤ静まりて主の御言葉を聴き給う」という言

「私は弱い時にこそ強い」⑤

池谷 治朗

つぶやき

「主に感謝、アシラムの友のお祈りにささえられて」

今年の年頭アシラムでは、皆様のお祈りにささえられ、主を通して恵牧師から按手をさずけていただきました。

按手をさずけていただいている時は、胸がドキドキ、心臓がバクバクしていました。

こんな私が、按手なんかうけていいのかさえ思えばかりでしたが、「主はすべてゆだねなさい、私に従いなさい」との言葉を聴き、心が落ち着き、主からの按手に応答する事ができました。すぐに何かができるわけではありませんが、私なりの、「ちいろば」を歩んでいきたいですね。



2019年6月第1回四国一日アシラム、事務局助けてくださった。昼食時、自己紹介にて。

葉が貼つてあるのを眺め、日々の中に御言葉を聴く時が増し加えられますよう、また京浜アシラムが益々祝福されますよう主に祈っております。

(バプテスト連盟 調布南キリスト教会)

(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド希望キリスト教会 (常任運営委員) 静岡、他各地 ZOOM聖書教室の友 (今年の年頭アシラムにて 按手の祈りを受けられた) (4月より早天祈禱会に ZOOM参加!)

証 幸福な病人

榎本保郎



保郎師、献児式にて。(1961年)
乳児は、恵師!?抱いているのは和子母!?

私は長年わずらって居りました時の手術のために、去る2月23日入院手術を受けました。手術は大したものではありませんが、痛みはなかなかで苦しい時には夜も眠れない位でありました。しかし他の方々よりずっと悪い状態にありながら、今の処、他のどの方よりも、痛みが少ないようので、

皆様の御加禱の故と全く感謝致して居ります。私は先日、或る姉妹から次のような手紙をいただきました。「榎本先生、お体はどうですか、先生は本当に幸福な病人さんです。神様からの病気をいただいているんですから、それに、保育園の小さな人から、歯抜け婆さんまで、皆先生の病気を

の為に喜んで祈っています。」私はこの手紙の如く、全く幸福な病人であります。痛くて、痛くてたまらない時、「僕は幸福な病人なんだ」と自分に言い聞かせると、とたんに感謝があふれて来ます。皆さんから愛される自分、今更の如くこのような自分を感謝して毎日を送っています。皆さん、ありがとうございます。

祈り

病気が早くなおりますようにと祈っていた自分が信仰を増して下さいと祈れたとき何か大きな発見でもしたようなよるこびが胸にこみあげて来た。

世光教会週報抜粋

1959年3月1日

(4年後、アシュラムセンター開設50周年)

この春、みもとに帰られた アシュラムの友 (3月~4月)

菅根 ヨシ姉 保郎師、和子姉 祈りの友 今治アシュラム始まり(50年以上前)からの先達

西本 知津子姉 東京聖書教室、オリーブの里アシュラムの友

高山 弘美姉 沖縄聖書教室の友

(7月の天上の友を憶える日礼拝にて、お祈りおささげします。一年のうちに召天された方々共に。)



ラビリンスに敷かれる石達



◀シメオン、ラビリンス作りいよいよ!まず祈りを。すると、ザワザワと木々が鳴り出し強い風が吹き始め…驚きの祈りの時でした。



↑石を敷き詰める前の細かい準備が整えられてきました。

シメオン黙想の家
完成感謝のメッセージより

「祈りを積む大切さを教えていただきました。忍耐を持って神様の時を待ち望めたことは、素晴らしい証しです…」

尾崎幹二・恵
(ZOOM 聖書教室ご参加中)



てる子師を天に見送る式にて。
2018年

私は何故キリスト教を信ずるか②

スタンレー・ジョーンズ
(アシュラム創始者)



E・スタンレー・ジョーンズ博士
70年前の「湖畔の声」
(近江兄弟社発行)より

アメリカの自然科学者であるミリカン博士は、私の同僚の自然科学者はキリスト教徒で、無神論者はないと言った。

キリスト教はデモクラシーの健全な発達のために、人の信用の上に出来ている。即ちキリストの氣持を表現したものがデモクラシーなのだ。

文豪のトーマス・マンは「デモクラシーはキリスト教を政治的にいい表わしたものだ。人間はどうしても人間以上のものを信ぜなければ本當に人間を信じる事が出来ない。」と言った。

キリスト教はこの世界を又人生を肯定する。これは大切な事だ。世界及び人生の改造は、互に信頼し合わねばならない。

歴史の目的はこの世に神の國をきたらす事であり、そのためには、神に全く信頼し服従することが必要である。この絶対信頼と絶対服従の全體主義を神は要求しているのだ。この絶対的な服従は絶対の自由を得るのだ。神に従う事は自らに従うと同じである。

眼は光のために、我々は神のために作られているのだ。故にキリストの「天の神を愛せよ。汝の隣人を愛せよ。」との言葉にならない人を愛することだ。この人類愛こそは人間の呼吸だ。この世に貧困があるが、こ

れは神のみ心ではない。お互が省みるならば貧困はない。

人間同士に於て、五段の進歩があると思う。①奴隷と持主 ②主人と従僕 ③傭備者と使用人 ④Comrade(同僚)同じ主義を守っているもの ⑤經濟關係にも、社會關係にも同胞主義。

人類の目的はこの同胞主義だ。神を中心とした同胞主義だ。神々、女神一切の似て非なるものを一掃して、天にただ一人の父なる神を仰ぎ、一つに結ばれねばならない。

イエスは我々に神を示したもうた。「我を見しものは父を見しなり」とおっしゃった。この言葉により神はあのキリストのような方だと思ふ。信頼すべきまことの神であると信ずる。イエスこそは神が人となりしものなのだ。イエスの人格をながめると神が分る。宇宙に於ける神はイエスのような人だと分る。キリストのような神の人格ならば我々をよかれとして下さる人だ。しかも神は愛なるが故に、人類を探していraftしやるのだ。イエスは

九十九匹の羊を野におき、迷える一匹の羊を野越え、谷を越えてさがし求め、遂に羊を見出し、羊を首にかかけ、羊が見つかった。……と、近所によるこびを告げた。イエスはこの羊飼の心のようなものが神の愛だとおっしゃった。

神は私を、あなたをさがしていたもう。神に見つけてもらう事が大切だ。神がさがして貰う道に自分をおくと見つけられる。一歩しか離れていない。一歩は廻われ右をすれば両手に抱えられている姿を見る。何もむつかしいことではない。本當に近くに居るのだが……。

家庭にありて子が罪を犯した場合、親は自ら悩み苦しむ。この苦しみが起るのは、自分の苦しみと考えるからだ。これは愛の本質だ。人間が神にさからつたので、十字架が起つてきたのだ。十字架こそは神のみ心に打建てられた苦難のしるしだ。(続)

スタンレー博士の講演録。

(一九五一年三月来幡。近江兄弟社、教育会館にて講演。)

←てる子師との思い出の赤いソファで穏やかに。(センター事務室にて。召天記念日を前に



シメオン黙想の家、掃除の助け人！
榎本てる子師の介護等お世話くださっていた市橋姉。修道場アシュラム開始を機に心強い助っ人！



黒見妙子姉にお会いできました。
病の中でも花のよう！皆様の祈りをお願いいたします。

主幹牧師の2020年度の振り返りと2021年ビジョン(2)

さて、2020年のアシュラムセンターの働きは、ご承知の通り、コロナの世界的感染拡大により大幅に変更中止をしなければならなかった。2月の台湾アシュラム訪問以降、主催アシュラム、聖書教室、地域アシュラムの多くが中止になり、今年度開催できたのは、「福岡1日アシュラム」と、「常任のための修道場アシュラム」、そして「日光オーリーブの里アシュラム」のみであった。特に宿泊や食事を伴うアシュラム集会にとっては、このコロナは大打撃であり、残念ながら、それは今も続いている。

しかし、そのような中で、全く新しい試みが示され、始まった。それは、今回の年頭アシュラムでも使われている、ZOOMというインターネット会議ソフトを利用した集会である。開店休業状態であったアシュラムセンターにとって、これは起死回生のものとなった。静岡の榎戸基兄、また榎本光太兄の2人の協力により、各地聖書教室のZOOMによる開催、また月一度の「ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝」のYouTube配信など、アシュラムセンターの新しい働きとなりつつあることは、なんと驚くべきことであるか。今では、コロナ対応の代替のものとしてだけでなく、独立した「ZOOM聖書教室」として、いわゆる各地の聖書教室とは別に、月に3回行われるようになっている。北海道、九州、香港、台湾に至るまで、20数名の方が、一堂に会することができるのは、まさにテクノロジーの賜物である。

それにしても、2000年前に、パウロが投獄の憂き目に会いながらも、手紙という通信手段で、宣教活動を続けたように、コロナ禍の中、身動

きが取れなくなっている私たちにとって、このZOOMは、大きな助けとなることは間違いないであろう。しかし、あのパウロが「顔を合わせて、あなたがたの信仰に必要なものを補いたいと、夜も昼も切に祈っています」(Iテサロニケ3:10)と書いたように、私たちも、このコロナも終わりの時があることを信じ、今この時を、希望を抱き生きていきたい。そして必ず、みなさんとともに顔と顔を合わせて出会い、共に賛美し祈る時が来ることを願っている。

「転んでもただでは起きぬ」とは強欲を言い表す言葉ではあるが、今回、ZOOMによる聖書教室やアシュラムができたことを通し、私にはこのコロナ禍の中にも、働かれる神の支配のあることを思わざるを得ない。「われわれには、しばしば、神様がわれわれを忘れてしまわれたかのように思われる。しかし、彼は、依然としてわれわれのもとにおられる。そして彼の御言葉は活きていて、真実であって、われわれは、確信を持ち続けることを許される。すべてのものは、彼の支配に服する」。子ブルームハルトの黙想の言葉に深く首肯するものである。

(続く)



センター聖書教室、リアル又はズーム、
どちらでも、参加可能です！

あとがき

季節はすっかり初夏のようになってきた。この美しい景色とは裏腹に、コロナ禍の中にあつて、心はスツキリとは晴れてこない。一年以上、アシュラム集会も開けないままである。地域アシュラムのみならず、もお会いしたいと願いつつも、現実には厳しい。少し収まりかけたかなと思つたら、また第3波、第4波と襲ってくる。神様、いつまでこれが続くのでしょうかと祈るばかりである。

確かに礼拝や、集会がクラスターとなつてしまつたら、どうしようもないだろう。しかし、このような時であるからこそ、祈り合いたいのだ。アシュラムセンターでは、そのためにZOOMによる聖書教室やYouTubeによる礼拝の配信など、できることはみんなやろうと思つている。

どうか、この緊急事態の中にあつて、もがきながらも、その術を求めている、センターをおぼえ、祈つて欲しい。私たちもあなたを覚え祈っている。(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。

5月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

7(金)	阪神ミニアシュラム(主恩教会 PM1:00)
8(土)	聖書と学ぶ会(ZOOM PM8:00)
10(月)	福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30)
11(火)	ZOOM聖書教室(ZOOM AM10:30、PM7:30)
16(日)	ちいば牧師記念チャペルタ礼拝(PM5:00)
17(月)	ZOOM 箴言に学ぶ会(AM10:30、PM7:30)
18(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)
19(水)	カフェちいば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)
21(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)
24(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
25(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
29(土)	広野祈りの家(兵庫県三木市志染 猪瀬姉宅 PM1:00)
6/1(火)	ZOOM聖書教室(ZOOM AM10:30、PM7:30)
6/4(金)	阪神ミニアシュラム(主恩教会 PM1:00)

5月のアシュラムなど

3(月) 5(火)	第29回 盛岡・秋田アシュラム (盛岡市「癒しの家」) 奉仕者 榎本 恵師	019-688-4228 角谷晋次師
14(金) 15(土)	第7回 北陸・金沢アシュラム (石川県青少年総合研修センター) 奉仕者 榎本 恵師	076-241-4409 石田哲夫兄
20(木) 22(土)	修道場アシュラム① (アッナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

New!!

6月のアシュラム予定

5(土)	新潟1日アシュラム (日本基督教団新潟教会) 奉仕者 榎本 恵師	0250-23-2597 吉澤昭男師
14(月) 16(水)	第45回 教職アシュラム (イエズス会 黙想の家 霊性センター) 奉仕者 加々美 要師	048-789-1325 加々美要師
17(木) 19(土)	修道場アシュラム② (アッナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23 前後	沖縄巡礼の旅 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

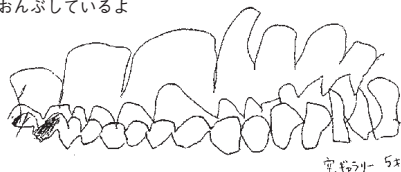
7月以降のアシュラム予定

7月10(土)	第2回 四国1日アシュラム
7月15(金)~17(日)	常任運営委員のための修道場アシュラム
7月18(日)	天上の友を憶える日礼拝
7月22(木)	福岡1日アシュラム
8月12(金)~14(日)	関西青年アシュラム

みことば

ノースカロライナ大学生
ZOOM聖書と学ぶ会
榎本 空

痩せたハブが太ったハブを
おんぶしているよ



空ちゃん 5才

実に、神の国はあなたがたの間にあります
(ルカ17:21)

「間」を意識するようになったのは、いつからだろうか。台湾、サンフランシスコ、ニューヨーク、ノースカロライナと日本が遠くなるにつれ、どうしようもなく埋めがたい「間」について考えることが増えたように思う。もちろんどんなに近くにいても、人と人との隙間に「間」は存在するのだろうし、そこにある寂しさは、誰もが持つものなのだろう。そんな「間」にある神の国とはどんな姿なのか、想像していたら、「そちらは揺れたらうか」という歌詞を思い出した。

あの東日本大震災が招いた物理的、心理的な「間」を繋いだのは、連呼された絆という言葉でもなければ、復興という空虚なスローガンでもなく、私たちが互いに幾度となく交わした願いの言葉だったのではないかな。あの震災から10年が経ち、その傷も癒えぬ間に、未曾有のウイルスが現れ、私たちは今まで以上に「間」というものに向き合わざるを得なくなっている。

しかし、その「間」に神の国の発芽を見出し、それを愛でる術を学びたい。シメオン・ヴァイユは遠く離れた友人にこう書いた。「わたしたちはこの隔たりを、友情によって織りなされたこの距離を愛することにいたしましょう。なぜなら、互いを愛することのない者は隔てられることもないのですから」(次号につづく)

お詫び

4月号アシュラム誌、配布部数のミスについて、深くお詫び申し上げます。不足分がまだ届かない方、又、これを機に部数変更されたい方、お手数ですが、ご連絡下さいませ。(FAX 0748-33-8856)

アシュラム誌をお待ち下さっている皆様に、
心より感謝いたします。

編集委員 榎本康子・光太